



～姉妹都市交流の巻～

京都の高校生と姉妹都市の青少年が、「環境」をテーマに意見交換等を実施

京都市、京都市教育委員会

はじめに

京都市では、世界の9つの都市（パリ、ボストン、ケルン、フィレンツェ、キエフ、西安、グアダラハラ、ザグレブ、プラハ）と姉妹（友好）都市提携を結び、文化、スポーツなど多彩な交流を行っています。

2012年7月から8月にかけて、これら9つの都市から青少年（各都市2名ずつ）を本市にお招きし、「環境」をテーマに、本市の3つの市立高校（西京高校、日吉ヶ丘高校、紫野高校）（以下、「3校」という）の生徒たちと、各都市相互の違いを超えた環境保全への協働や地球環境のあり方などについて、ワークショップや意見交換等を行う「姉妹都市青少年みらい環境会議 2012 in Kyoto」を開催しました。

本事業は、「京都議定書」採択の地である本市において、人類の共通課題である環境問題について、次代を担う世界各都市の青少年に議論いただき、相互理解を深めていただくことを目的に、実施したものです。

なお、本事業の実施に当たっては、クレアの「平成24年度地域国際化施策支援特別対策事業」を活用させていただきました。

主な内容

初日 7月30日(月) 京都市

9都市の青少年が京都に到着しました。時差ボケと長時間のフライトのため、皆さん少々疲れ気味でしたが、ホストファミリーと対面したときには、笑みがこぼれていました。

今回のホストファミリーは、3校の生徒の家庭

から募集させていただきました。ホームステイの受け入れははじめてという家庭も多く、事前説明会では不安の声も聞こえましたが、事前にメール等で交流を行っていただいていたことから、初対面ながら、旧知のように皆さんすぐに打ち解けていただくことができました。

2日目 7月31日(火)

市役所表敬訪問、ワークショップ

9都市の青少年は、門川大作京都市長を表敬訪問したのち、6名ずつ3校に分かれ、3校の生徒たちがそれぞれ独自に企画したワークショップに参加しました。

ワークショップでのやり取りは、原則、英語で行われましたが、共同作業等を通じて、9都市の青少年と京都の高校生間の交流を深めることができました。

各校のワークショップ

高校名	テーマ	内容
西京高校	京都の水のすばらしさを伝えたい	豆腐づくり体験等
日吉ヶ丘高校	和のエコと伏見の水	名水で有名な御香宮の見学等
紫野高校	未来につなぐ文化と自然環境	手作り水車による水力発電装置の製作等

3日目 8月1日(水)

オープニング式典、会議、交流会

会議の開催に先立つオープニング式典で、門川市長と大西均京都市議会議長があいさつを行いました。門川市長は、「京都を含め、世界に名だたる10姉妹都市の未来を担う青少年が交流・協力し、環境について共に学びあうことで、世界の未来は明るくなる。本会議を未来に羽ばたく契機としてほしい」と述べました。

続く会議では、「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、西京高校の生徒による司会進行のもと、英語



会議における意見交換の様子

による発表と意見交換が行われました。

初めに、3校の生徒が前日のワークショップの報告を行った後、9都市の青少年と、京都代表の紫野高校の生徒が、それぞれ各都市の環境に対する取り組みや、環境に対して自分たちができることなどについて発表を行いました。

その後、9都市の青少年と3校の生徒が、活発に意見交換を行いました。

最後に、日吉ヶ丘高校の生徒が、環境問題解決のために「事実を知ろう」「情報を交流しよう」「行動しよう」という3つのメッセージからなる宣言文を読み上げ、意見交換の参加者全員が署名することにより、宣言が採択されました。

会議終了後、9都市の青少年、3校の生徒、ホストファミリーの皆さまや関係者が参加する交流会を開催しました。交流会では、3校の生徒による出し物や、京都市立芸術大学の学生による各姉妹都市にちなんだ楽曲演奏、関西京都今村組によるダンスが披露され、参加者間の交流と友情の絆をより一層深めていただくことができました。

4日目 8月2日(木)

京都市北部クリーンセンターの視察

9都市の青少年と3校のうち視察を希望した生徒に、本市の最新のごみ焼却施設である京都市北部クリーンセンターを視察してもらいました。

同センターでは、啓発用の展示室を併設しており、ごみ処理の現場や展示室を見学しながら、持続可能な社会の実現に不可欠な「3R」(Reduce(廃棄物の発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再資源化))など、京都市の環境への取り組みについて学んでもらいました。

視察終了後はフリータイムで、9都市の青少年には、ホストファミリーの皆さまと思いきい時間を過ごして



会議参加者による記念撮影

もらいました。

最終日 8月3日(金) 帰国

9都市の青少年とホストファミリーの皆さまや3校の関係者は、ソーシャル・ネットワーク・サービスやメール等を通じて、今後も交流を続けていくことや、再会を約束しながら、別れを惜しんでいました。

事業の成果

本事業により、以下の成果を得ることができました。

- 通常の姉妹都市交流が2都市間で行われることに対して、本事業は京都市を含めて世界の10都市の青少年が一堂に会する会議であり、京都において地球規模の交流を行うことができた。
- 9都市の青少年がホームステイを行うことにより、青少年交流にとどまらず、ホストファミリーの家族との交流など、広がりを持った市民レベルの交流を行うことができた。
- 日本を含む10か国の青少年が、英語で自分の考えを表現したり、議論したりすることにより、英語のスキルアップと、国際感覚を養う機会を提供できた。
- ワークショップについては、3校の生徒がそれぞれ企画を自ら考え、当日の運営も行うことにより、新しいことにチャレンジする行動力や国際感覚を養える絶好の機会となった。また、会議本番には参加できなかった生徒も含め、約300名の生徒が、9都市の青少年と共に活動することにより、友好の輪を広げることができた。
- 「京都議定書」採択の地・京都市が、環境問題に関する青少年による国際会議を開催することで、環境先進都市として、大きな役割を果たすことができた。

最後になりましたが、京都洛中ロータリークラブ様、(公財)京都市国際交流協会様、(財)京都市環境事業協会様、ルフトハンザ ドイツ航空会社様、全日本空輸株式会社様をはじめ、事業の実施に当たりご協力いただいた皆さまに、この場をお借りして深くお礼申し上げます。